資料２

「誰一人取り残さない」（現状と課題）

データや学校訪問、面談等から見えてきたこと

1　教員は目の前の子どもに対してはよくやっている（子どもに寄り添って）

2　地域も協力的

3　家庭状況は本当に厳しい（経済的な厳しさ、身近に本がない、通塾率も低い）

4　計画的な学校運営に課題あり？

1　対応がその場限りになっていないか。**学校組織としてPDCAが機能しているか**？

2　**人的・物的資源をいかに生かすか**（時間・空間・予算）**カリキュラムマネジメント**

・適切な役割分担（校長・教頭・教員（担任と担任外・養教）・事務職員

3　小中一貫校化と中学校区単位となる**学校運営協議会の活用**。

※　**学校としてできることにしっかり取り組む必要がある。**

（結局は家庭状況の厳しい子どもが取り残されている！？）

「誰一人取り残さない」（取組の方向性）

1　学校全体として、子どもの実態を踏まえた教育課程を検討し改善を図る。

カリキュラムマネジメントと授業改善（伴走チームの活動は極めて有効）

2　生徒指導体制の一層の充実

学校と警察の連携強化（警察OBによる相談対応及び地域パトロール等）

3　不登校対応の一層の充実

校内教育支援ルームの充実と学びの多様化学校の研究

4　家庭状況の厳しさは予想以上

小学校低学年からの**学習習慣の確立（低学年対象の基礎学力調査実施）**

全ての学校での**読書環境改善の工夫**

（毎日学校図書館を開館したり学級や廊下に本を置いたりする等）

5　**学校運営協議会**で「何を実現したいか」共に考え推進する

学校からの適切な情報提供と戦略的な運営